

第 306 回くらしの植物苑観察会 令和6年9月28日(土)

## 「くらしの植物苑の菌類と植物」

栃原 行人 氏 (千葉県立中央博物館)

今回の植物苑観察会では、植物とは切っても切り離せない関係にある、「菌類」についてご紹介します。苑内に植栽された樹木の落ち葉や小枝を拾って、ルーペで観察してみましょう。肉眼では気づけないほど小さな、直径1ミリにも満たない菌類が見つかることがあります。こうした菌類はビョウタケの仲間とよばれ、あらゆる樹木の落ち葉や小枝から発生し、それらを分解する役割を担っています。一般的な図鑑には載っていない種類が多いですが、実際には膨大な多様性を秘めたグループです。観察会の前半では、スライドを使ってビョウタケの仲間の菌類が発生する環境や、菌の探索方法、肉眼および顕微鏡レベルでの種類の見分け方についてご紹介します。実物の乾燥標本も持参しますので、ぜひ会場内でご覧になって、ミクロなきのこの造形美を堪能していただければ幸いです。また、ビョウタケの仲間の菌類は、植物と様々な関わりを持っています。病原菌として振る舞うこともありますが、植物と共生して植物の生長を促進することも知られています。特に、南西諸島に分布するビロウ(ヤシ科)や、中部日本以北に分布するヤチヤナギ(ヤマモモ科)といった樹木には、特異的に発生するビョウタケの仲間が知られており、これらの菌の遺伝的な構造は、宿主である樹木の分布と強く関わっていることが分かってきました。観察会の前半では、このように菌類と植物をつなぐ最新の研究成果や、現在調べているシロキツネノサカズキとよばれる可憐なきのこの分類学的問題点についてもご紹介いたします。

後半では、くらしの植物苑の苑内に出て、ビョウタケの仲間を中心に、秋のきのこを観察します。くらしの植物苑では、これまで菌類調査が行われておらず、菌類のリストは未だ作られていないようです。観察会では、ぜひ一緒に苑内を巡り、多くのきのこを観察・記録できればと思います。

①



シロキツネノサカツキ

②



ビロウの樹

③



ビロウの落ち葉に生えたビョウタケの仲間

.....

**次回予告** 第307回くらしの植物苑観察会 令和6年10月25日(金)

※平日開催となります。ご注意ください。

「平成・令和野草雑記序説—身近な外来種—」

川村 清志 (当館研究部民俗研究系 准教授)

13:30~15:30

くらしの植物苑 東屋 申込不要